

誰がいじめられるのか：いじめ被害者の特徴

眞田 英毅（東北大学大学院文学研究科修士課程 1 年）

teruki.sanada.s8@dc.tohoku.ac.jp

付記

本報告の内容は 6 月の東北計量社会学研究会での報告をもとに一部を修正・発展させたものです。報告の際には参加されたみなさまから有益なコメントをいただきました。記して感謝申し上げます。

変数の作り方

連続変数

15 歳時の成績・家庭の雰囲気・暮らし向き・朝食習慣・歯磨き習慣に関しては値が大きいカテゴリが最大値の値を取るようになっている。いじめ容認率に関しては文部科学省（2016）を参考に「いじめは何があっても絶対にいけないと思いますか」という問いに「どちらかというと思わない」「そう思わない」と答えた中学 3 年生の割合を示している。連続変数の記述統計量は以下の表 1 の通りである。

表 1 連続変数の記述統計量

		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
男性	年齢	1317	21	41	31.91	5.71
	15歳時の成績	1317	1	5	3.24	1.22
	15歳時家庭の雰囲気	1317	1	4	3.15	0.79
	15歳時暮らし向き	1317	1	5	3.09	0.80
	15歳時朝食	1317	1	5	4.27	1.14
	15歳時歯磨き	1317	1	5	4.27	1.17
	15歳時の文化資本	1317	1	20	12.80	2.87
	地域いじめ容認率	1317	4.8	10.7	8.15	1.42
女性	年齢	1569	21	41	31.94	5.94
	15歳時の成績	1569	1	5	3.33	1.10
	15歳時家庭の雰囲気	1569	1	4	3.13	0.85
	15歳時暮らし向き	1569	1	5	3.13	0.80
	15歳時朝食	1569	1	5	4.57	0.89
	15歳時歯磨き	1569	1	5	4.76	0.69
	15歳時の文化資本	1569	1	20	13.12	2.83
	地域いじめ容認率	1569	1	20	8.11	1.44

カテゴリ変数

カテゴリ変数の度数分布表は以下の表 2 の通りである。なお、それぞれ上のカテゴリが 1 を取るようなダミー変数としてモデルには投入している。

表 2 カテゴリ変数の度数分布表

	男性		女性	
	度数	%	度数	%
いじめ経験あり	219	17.0	405	25.8
いじめ経験なし	1084	83.0	1164	74.2
父親学歴大卒以上	392	29.8	454	28.9
父親学歴高卒以下	925	70.2	1115	71.1
母親大卒以上	123	9.3	126	8.0
母親高卒以下	1194	90.7	1443	92.0
兄弟姉妹がいる	1227	93.2	1449	92.4
兄弟姉妹がいない	90	6.8	120	7.6
親が失業している	194	14.7	234	14.9
親が失業していない	1123	85.3	1335	85.1
親が離婚している	83	6.3	100	6.4
親が離婚していない	1234	93.7	1469	93.6
末っ子である	477	36.2	566	36.1
末っ子でない	840	63.8	1003	63.9
合計	1317	100	1569	100

いじめられやすさの社会的な規定要因

表 3 いじめ経験に関する分析 (男性)

	モデル1			モデル2		
	B	S.E.	Exp(B)	B	S.E.	Exp(B)
切片	-1.89 **	0.62	0.15	0.15	0.89	1.16
年齢	0.01	0.01	1.01	0.01	0.01	1.01
父親大卒ダミー	0.39 *	0.17	1.48	0.39 *	0.18	1.47
母親大卒ダミー	-0.28	0.28	0.76	-0.18	0.29	0.83
親失業ダミー	0.75 ***	0.19	2.12	0.65 **	0.19	1.91
親離婚ダミー	0.51 †	0.27	1.66	0.33	0.28	1.39
一人っ子ダミー	0.20	0.28	1.22	0.13	0.29	1.14
末っ子ダミー	-0.22	0.16	0.80	-0.16	0.17	0.85
地域いじめ容認率	-0.04	0.05	0.96	-0.05	0.05	0.95
15歳時成績				-0.01	0.06	0.99
15歳時家庭の雰囲気				-0.40 ***	0.09	0.67
15歳時暮らし向き				0.06	0.10	1.06
15歳時朝食習慣				0.18 *	0.07	1.19
15歳時歯を磨く習慣				-0.29 ***	0.06	0.75
15歳時所有財				-0.03	0.03	0.97
-2LL		1173.69			1129.93	
Nagelkerke R2乗		0.03			0.09	

表 4 いじめ経験に関する分析 (女性)

	モデル1			モデル2		
	B	S.E.	Exp(B)	B	S.E.	Exp(B)
切片	-0.97 *	0.48	0.38	0.09	0.75	1.09
年齢	-0.01	0.01	0.99	-0.01	0.01	0.99
父親大卒ダミー	0.09	0.14	1.09	0.11	0.15	1.12
母親大卒ダミー	-0.25	0.24	0.78	-0.22	0.24	0.81
親失業ダミー	0.57 ***	0.15	1.77	0.53 **	0.16	1.70
親離婚ダミー	0.41 †	0.22	1.50	0.13	0.24	1.14
一人っ子ダミー	0.10	0.22	1.10	0.09	0.22	1.09
末っ子ダミー	-0.14	0.13	0.87	-0.18	0.13	0.83
地域いじめ容認率	0.02	0.04	1.02	0.02	0.04	1.02
15歳時成績				-0.14 *	0.06	0.87
15歳時家庭の雰囲気				-0.27 ***	0.07	0.76
15歳時暮らし向き				0.06	0.08	1.07
15歳時朝食習慣				-0.02	0.07	0.98
15歳時歯を磨く習慣				-0.03	0.09	0.97
15歳時所有財				0.02	0.02	1.02
-2LL		1767.40			1745.03	
Nagelkerke R2乗		0.02			0.04	

参考文献

- [1] 土居健郎・渡部昇一, 2008, 『「いじめ」の構造』 PHP 研究所.
- [2] 林明子, 2016, 『生活保護世帯の子どものライフヒストリー: 貧困の世代的再生産』 勁草書房.
- [3] 伊藤美奈子, 2017, 「いじめる・いじめられる経験の背景要因に関する基礎的研究: 自尊感情に着目して」『教育心理学研究』 65: 26-36.
- [4] 久保田真功, 2013, 「なぜいじめはエスカレートするのか?: いじめ加害者の利益に着目して」『教育社会学研究』 92:107-127.
- [5] 舞田敏彦, 2013, 『教育の使命と実態: データからみた教育社会学試論』 武蔵野大学出版会.
- [6] 正高信男, 2007, 『ヒトはなぜヒトをいじめるのか: いじめの起源と芽生え』 講談社.
- [7] 水田明子・岡田栄作・尾島俊之, 2016, 「日本の中学生のいじめの加害経験に関連する要因: クラスレベルと個人レベルでの検討」『日本公衆衛生看護学会誌』 5(2): 136-143.
- [8] 文部科学省, 2016, 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」.
- [9] 森田洋司・清水賢二, [1986] 1994, 『新訂版 いじめ: 教室の病い』 金子書房.
- [10] Olweus D, 1978, *Aggression in the schools: Bullies and whipping boys*. Washington, D.C: Hemisphere.
- [11] 大西彩子, 2007, 「中学生のいじめに対する学級規範が加害傾向に及ぼす効果」『カウンセリング研究』 40(3): 1-9.
- [12] 大野俊和・長谷川由紀子, 2000, 「『いじめ』の被害者に対する外見のステレオタイプ」『実験社会心理学研究』 40(2): 87-94.
- [13] Ridge, Tess, 2002, *Childhood Poverty and Social Exclusion: From a Child's Perspective*, The Policy Press.(=2010, 中村好孝・松田洋介・渡辺雅男訳『子どもの貧困と社会的排除』桜井書店.)
- [14] 滝充, 1992, 「“いじめ”行為の発生・推移状況に関する実証的研究: “いじめ”行為の恒常化と加害・被害経験の一般化」『教育学研究』 59(1): 113-123.
- [15] 阪井俊郎, 1989, 『いじめと恨み心』 家族教育社.